日本海で急増したサワラを有効利用するための技術開発事業

髙橋　進吾

目　　的

近年、日本海で急増したサワラ資源を有効利用するために、各地域での漁獲動向や体長組成等を調査し、日本海全域での分布・回遊、成長・成熟等を解明する。

材料と方法

1. 漁獲動向調査

日本海主要港（新深浦町漁協本所・岩崎支所、深浦漁協）における月別銘柄別漁獲量を調査した。銘柄は、体重1kg以上を「サワラ」、1kg未満を「サゴシ」とした。

2. 魚体測定調査

平成21年10月～平成22年1月に新深浦町漁協本所で主に定置網で水揚げされたサワラを買取りし、尾叉長、体重、性別、生殖腺重量等の精密測定を行った。また一部は、現地にて尾叉長のみを測定した。

3. 標識放流調査

平成21年10月～平成22年1月に試験船「青鵬丸」を使用して曳釣りで釣獲したサワラの背部にスパゲティタグ標識を貫通させて装着し船上から放流した。

結果と考察

1. 漁獲動向調査

青森県におけるサワラの漁獲量は平成18年頃から急増し、それ以降は100トン以上で推移している。そのうち日本海では、50トン前後で推移している。平成21年の日本海主要港における漁獲量は45トンで、前年比61％と減少した（図1）。平成21年の日本海主要港における月別銘柄別漁獲量をみると、5月が21トンと最も多く、4～9月は「サワラ」サイズの割合が高く、10月以降は「サゴシ」サイズの割合が高い傾向にあった（図2）。

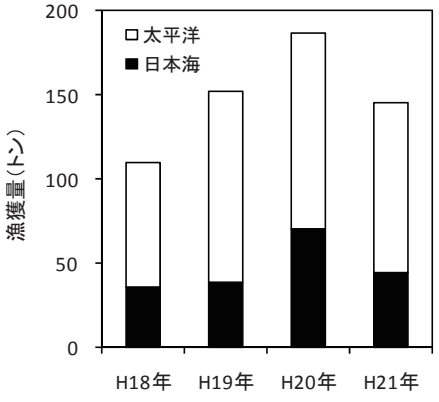

図 1　青森県におけるサワラの海域別漁獲量

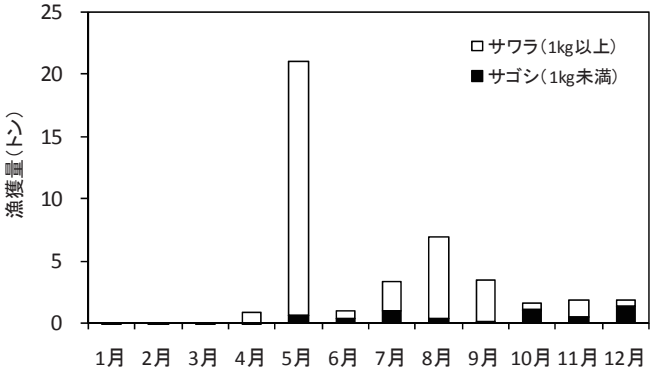

図 2　日本海主要港におけるサワラの月別銘柄別漁獲量（平成 21 年）

日本海側の各府県の漁獲動向等の調査から、サワラは主に9月頃から0歳魚が来遊し日本海西部から北部の広い範囲に分布することが分かった。青森県沖では、10月頃から0歳魚と想定される「サゴシ」サイズの小型魚を主体に分布がみられている。

2. 魚体測定調査

10月以降、尾叉長のみの場合も含めて計323尾を測定した。尾叉長は38.5～70.0cmの範囲にあった。

尾叉長と体重の関係をみると、尾叉長40～50cm（平均43.6cm）・体重400～900g（平均578g）と尾叉長60～70cm（平均62.5cm）・体重1,600～2,200g（平均1,839g）を中心とする2群がみられた（図3）。

銘柄別の性比では、大きさによって性比の違いはみられず、両者とも雄が4割、雌が6割と雌の割合が高かった（図4）。また、成熟状況は、測定した全個体が未熟であった。

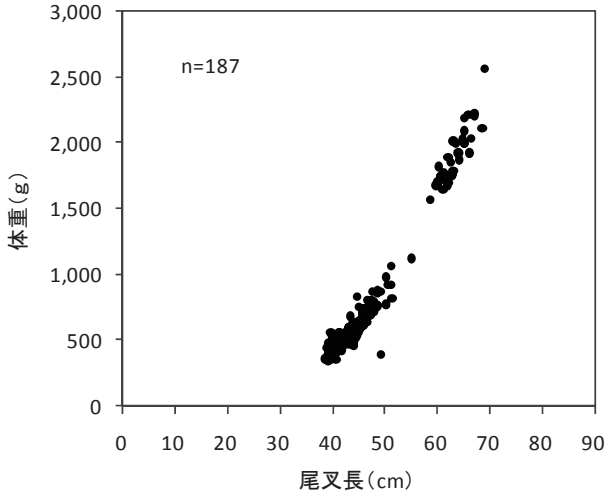

図 3 サワラの尾叉長と体重の関係

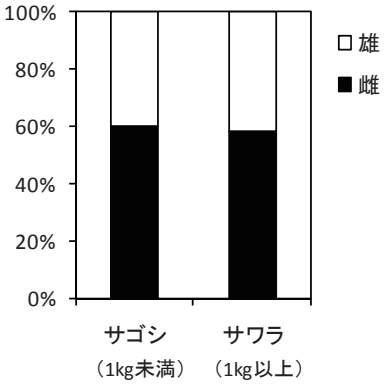

図 4 銘柄別性比の割合

3. 標識放流調査

11～12月に計18尾(尾叉長38～70cm)の標識放流（表1）を行ったが、再捕はみられなかった。

表1 サワラの標識放流結果

放流月日	放流場所	放流尾数	放流魚の大きさ（尾叉長:cm）	標識の番号
H21.11.6	出来島沖	8尾	38～47	サワラAM000～007
H21.12.1	風合瀬沖	10尾	44～70	サワラAM008～017